

②第2回沖縄空手世界大会・第1回沖縄空手少年少女世界大会 (沖縄空手世界大会開催事業)

文化観光スポーツ部

実施主体: 県、沖縄伝統空手道振興会(実行委員会形式)

実施時期: 令和4年8月1日 ~ 令和4年8月9日

<50周年記念事業のテーマ>

3 事業を通して、祖先への敬意、自然への畏敬の念、他者の痛みに寄り添う肝心など、沖縄文化の魅力を共有し、恒久平和を願い、喜びを分かち合うユイマールの思いを大切にする、沖縄らしいやさしい社会の実現に向けた機運を高める。

【事業の内容等】

令和3年度: 審判育成、県内予選

令和4年度: 県外・国外予選、本大会、交流会



(1) 50周年記念事業として位置付ける意義及び成果

幼少(6歳)からシニア(60歳以上)までの全年代が演武を競う初めての大会となる。

空手は、厳しい鍛錬を通して身体を鍛えるとともに、心を磨き礼節を重んじる「平和の武」として国内外に広く普及し、幼少期においては礼節の学び、青年期においては身体及び精神の鍛錬、高齢期においては健康維持などの目的・効果が期待され世代を超えて愛されている。先人により創造され育まれ受け継がれてきた空手を保存・継承し、世界に誇れる伝統文化として世界に向けて普及・啓発するため、復帰50周年記念事業として世界大会を実施する。

(2) 50周年記念事業として県民にアピールするポイント及び県民の参画

世界には1億3,000万人の空手愛好家がいると言われており、東京オリンピックで県出身選手が空手で金メダルを獲得したことで、これまで以上に空手に注目が集まっており、復帰50周年を迎えるにあたり、沖縄県にも注目が集まっている中で、世界中の人々に空手発祥の地・沖縄を広く周知する絶好の機会となっている。

本事業における県民の参画においては、①選手としての大会参加、②空手に触れる機会としてのセミナーの参加、③本大会の見学及び④本大会会場で実施される空手関連イベントや世界各国から来県した空手愛好家との交流が可能。

また、本大会関係で来県する海外来訪者においては夏のバカンスを利用して長期の沖縄滞在をする者もあり、観光関連事業(宿泊施設、交通事業者、飲食・土産品等)の利用も期待できる。

(3) 前回大会(2018年大会(対象:18歳以上))における参加者等

①大会参加者実数:1,600人(うち海外850人) ②参加国・地域:50カ国・地域 ③会場来場者数:延べ25,000人